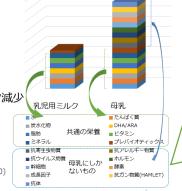
### 母乳をあげたい人が継続できるように 支援することで

- •子どもが
  - •感染症にかかりにくくなる
  - ・肥満、糖尿病になりにくい
  - ・認知能力の発達
- 母親が
  - ・肥満や2型糖尿病発症リスク減少
  - ・乳がん発症6%減
  - ・卵巣がん発症18-30%減

(Victora, et al. Lancet, 2016. 387: 475-90)



#### 1滴の母乳に数千もの有益な成分

- ●病気から守る抗体▶ 免疫グロブリン 5タイプ
- ●感染症と闘う白血球▶小さじー杯5ccの母乳に菌を殺す細胞が300万
- ●赤ちゃんの消化系を守る有益な細菌
- ●健康的な腸をサポートするプレバイオティクス ▶母乳のオリゴ糖は200種類以上
- ●赤ちゃんの消化系と免疫系をサポートする酵素 ▶40種類以上
- ●絆を深めたり食欲を調節したりするホルモン
- ●健康的な睡眠・覚醒パターンの発達を助ける ヌクレオチドとホルモン
  - 参考: https://www.medela.jp/breastfeeding/mums-journey/breast-milk-vs-formula

## 母乳育児は母親の義務ではなく母と子の権利 父親/パートナー、職場、地域からの支援が必要



政治家ができること

世界保健機関(WHO)と国際労働機関(ILO)より

- ・職場復帰後も授乳を続けると子どもが病気にかかりにくくなり、母親も糖尿病・乳がん・卵巣がんにかかりにくくなる
- 子どもの病気のための欠勤が少なくなる
- 海外では
  - ▶有給の育児休業が保証され、母乳育 児率の高い北欧
  - ▶公衆の場での授乳の権利が法律で保障されている米国(全州)
  - ➤職場に授乳室・搾乳室を作ることを 法律で定めている米国
  - ▶父親に母乳育児を含めた情報提供の 介入をすると母乳率があがる(ベトナム、カナダ、中国の研究)

# 父親の子育ては授乳以外でもたくさんあります

- ・母乳分泌のしくみ:外に出せば出すほどつくられる▶授乳回数が急に減ると乳腺炎にかかったり、母乳の出が減るリスク
- ・父親が、赤ちゃんの入浴、おむつ替え、抱っこなど 授乳以外の育児を積極的に担うことで、母親が頻繁 な授乳に専念できると、母乳育児の確立につなが り、父親と赤ちゃんの絆が深まる
  - ▶赤ちゃんは食べ物(授乳)のない関係からも愛が得られることを知り、多様な関係を学んでいくことができる



パパが赤ちゃんの入浴を しているところ (写真提供:三浦孝子)

出典:本郷寛子「母乳で育てる家族における父親の主体的かかわり」助産雑誌71(10),2017:774-780

『災害時における乳 幼児の栄養:災害救 援スタッフと管理者 のための活動の手引 き』では、災害時には まず母乳育児を保 護・推進・支援するこ と、そして母乳が手 に入らない場合は代 替栄養である乳児用 粉ミルク・乳児用液 体ミルクが安全に使 われるように勧告し ています。

防災対策において、 WHO の『母乳代用 品のマーケティング に関する国際規準』 と世界保健総会の関 連決議を国内法に設 定し、災害時の対応 を含めて常時施行す るように書かれてい ます。



## なぜ災害時の乳幼児栄養法が重要なのか?

#### 災害が起こると:

- 人口移動;人口密度が増える
- 食糧の供給が不安定;安全な水の入手困難
- 衛生状態の悪化
- 保健医療ケアのシステムが追いつかない
- 乳幼児の疾病率・死亡率が上がる (主な原因となる下痢のリスクが高 まるため)

#### 母乳を得られない赤ちゃん:

- 衛生に気を付けて安全に代替品をあげる必要
- 最も優先して援助が必要 (栄養面だけでなく、感染症のリスクも高い)

#### 母乳を飲んでいる赤ちゃん:

- 安全で安定した食を乳幼児に供給可能
- 汚染水の細菌/寄生虫による病気から児を守る
- 感染症予防やかかっても軽く済む



ミルクが必要量、

継続して届くように支援





『人道憲章と人道対 応に関する最低基 準』(スフィア基準) においても、『災害時 における乳幼児の栄 養:災害救援スタッ フと管理者のための 活動の手引き』の国 際ガイドラインに従 うよう明記されてい ます。

## 災害時は適切な授乳支援が求められる



母乳を

ママ

あげている

母乳の人には

ミルクは一律に は配布しない! 安心できる環境 適切な情報 特に気を付けて

・適切な支援

ミルク等が必要 全体のミルクの 必要量が下がる な赤ちゃんに行 感染症が予防さ きわたる 感染症リスクが れる 下がる

不安な環境

災害時に資源 が限られる

わたらなくなる

感染症リスクが 拡大する

不適切な情報 不適切な支援

ミルクの全体の

必要量が上がる

感染症のリスク

が拡大する

ミルクが必要な 赤ちゃんに行き



ミルクを あげている



## WHO『母乳代用品のマーケティン グに関する国際規準』(1981)

- ・これを守るのは、政府、企業、保健医療システム(保育所も含む)です!
- •目的:母乳育児を保護・推進し、必要な場合には「適切な情報に基づき、公正妥当なマーケティングと支給を通じて母乳代用品が適切に用いられるこ 正文当は、ファインフに文相を通じて時代の間が通りに用いられると と」を保証し、それにより**乳児に対する安全で十分な栄養の供給に寄与する** こと
- ・<u>乳児用ミルクや哺乳瓶のプロモーションの禁止</u>
- ・ただし、女性の意志に反して母乳育児を強いることを目的とし ているわけではない
- ・誰もが乳児の栄養法に関して偏りがない正確な情報を得て、乳児用ミルクが必要と見なされたときに、可能な限り安全に使用されるよう保証する
- ・日本は法制化はされていないが1994年に賛成
- ・WHOに加盟する世界194か国中136か国が部分的あるいは完全に何らかの法律や条例 として法制化 (WHO, 2018)
- ・国連の子どもの権利委員会からの日本の第4回・第5回統合定期報告書に関する総 括所見(2019年)でも、この「国際規準」を全面的に実施するように勧告

https://bonyuikuji.net/?p=317

#### インターナショナル「国際規準」資料センターに 「違反」通告された日本の液体ミルク販売促進活動



災害時の乳幼児栄養の支援情報 https://i-hahatoko.net/?page\_id=711 <参考>

災害時の授乳支援で気を付けるべき点、現場での支援に役立つチラシ(母乳をあげている方・ミルクをあげている方の両方)、 液体ミルクを取り扱う際の注意点、授乳救援の国際スタンダードなど、重要な情報をご用意しています。